

地域社会との密接な連携を築こう

～ 将来の地域の担い手となる子どもの育成 ～

豊川市立西部中学校 P T A

1 学区及び学校の概要

西部中学校は豊川市の南西部に位置し、学区は宿場町の面影が残る。近隣には船山古墳や御油の松並木といった歴史遺産が数多く存在するほか、学区の中央を音羽川が流れ、弘法山など東西の山なみに囲まれ、さまざまな動植物が四季を彩る自然豊かな環境にある。一方、学区内を南北に国道1号線と名鉄名古屋本線が縦断し、更にそれぞれ県道5号線（姫街道）と名鉄国府駅からの豊川線により、豊川市街へのアクセスの分岐点ともなっている。このような恵まれた環境にある本校は、令和2年度に創立74年を迎えた、生徒数569名、教職員数39名の学校である。

2 研究のねらい

本学区は、市民館や公民館を中心にした活動が盛んで、地域社会の結びつきはとても強い。祭礼での花火や山車など歴史ある行事が多く受け継がれている。地域の構成員に目を向けると、一部の地区では開発が進み人口が急激に増加しているものの、昔ながらの地区は子どもの数が減少しつつある。新しく来た人々が地域のよさを味わい横のつながりもしっかりと持ち、次世代を担う子どもたちが積極的に地域貢献できるようなP T A活動を実践することで、持続可能な社会の実現を目指していきたいと考えた。

3 研究の仮説

保護者や地域の方が積極的に学校とかかわりを持ち、子どもたちも積極的に地域とかかわりをもつP T A活動を推進することで、将来の地域の担い手となる子どもたちを育成することができるであろう。

4 研究の方法

保護者、地域の横のつながりを重視したP T A活動と生徒が積極的に保護者や地域の方と協働するP T A活動を実践する。

5 研究の実践

(1) 横のつながりを重視した活動

ア P T A図書館サロン

校区に在住する方を中心にして、学校の図書館を会場にし
た年間に8回ほどの活動が続けられている。この活動はP T A会員の自己研修をめざすとともに、かつて学校の雰囲気は落ち着かなかった頃に保護者や地域の方が積極的に学校へ足を運び、校内へ入る手立てとしても期待されて発足した。毎年メンバーを募り、ものづくりや講師を招いてお話を聞く会、時には近隣の工場へ見学に行くなどの活動が展開されている。そのため、お子さんが卒業しても引き続きメンバーに残る方も多く、学校とのかかわりを積極的に保ってくれている。



【PTA 図書館サロン「目からウロコの家庭防災」】

イ P T A 体験研修

1 学期には、P T A 主催の体験研修が行われる。平成 3 0 年度は地元のスポーツトレーナーをお招きし、「スポーツに熱中する我が子のサポート講座」を開催した。生徒の心と身体の両面からのケアについて、実習を織り交ぜた大変有意義な会となった。令和元年度には、「豊川の郷土の歴史にふれよう」と題して、三河国分尼寺跡史跡公園を訪問した。現地ではガイドからの説明を聞き、郷土への愛着を深めることができた。こうした体験研修を通して、地域の方や P T A 会員同士の横のつながりを深めている。



【体験研修 「豊川の郷土の歴史にふれよう」】

ウ P T A 研修旅行（日帰りの研修旅行）

平成 2 9 年度には会員の伝手もあり、3 0 名ほどで伊勢神宮へ出かけた。通常の観光では見ることができないところまで見学させてもらうことができ、有意義な時間となった。平成 3 0 年度には 4 0 名ほどで静岡方面へ向かい、防災について見識を深めた。令和元年度は、知多方面へ出かけて電力について学習を深めることができた。この研修旅行は、会員同士が親睦を深めるとともに、日頃体験することができない見学や活動を通して研修を深めることができる貴重な場となっている。



【P T A 研修旅行 知多電力館】

（2）生徒が地域とともに行う資源回収とボランティア活動

資源回収は毎年 2 回実施している。資源回収は、ほぼ全員の生徒が各地区や学校内で参加するとともに、保護者や地域の方々の積極的な参加によって支えられている。

令和 2 年度より、今まで学校で行われていた生徒によるボランティア活動を P T A 行事とし、保護者が積極的に参加できるよう計画した。地区の松並木の清掃、市民館や公民館行事、地区の運動会、近隣福祉施設への訪問など、毎年のべ 1 5 0 名程が自主的にスタッフとして参加している。

6 研究の考察

本校では、P T A 新聞を地区回覧にせず、全戸に配付している。P T A 活動の様子を地域全員に知ってもらうことを通して、活動への理解と協力を得ている。多くの地域関係者、保護者と学校が協働して活動することにより、地域を大切に思う気持ちを育むことができたと感じている。

7 成果と今後の課題

令和 2 年度は、感染症予防のため、ほとんどの活動を行うことができなかった。今年度から P T A 活動に移行したボランティア活動へ参加を表明してくれていた保護者もいたが、残念ながら実施することができなかった。次年度の実践を通して、解決すべき課題を明確にしていきたい。

子どもたちが立場や年齢の異なる人と一緒になって活動することから体感する充実感は、地域に根差した P T A 活動ならではのものだと考える。学校生活だけでは味わうことができない地域とのつながりを重視した活動を今後も充実・発展させ、将来の地域の担い手となる子どもたちの育成を図っていく。